

原稿 正本

カフテヤシ

第一章

ガラテヤ書

一 人よりに非ず人に由るにも非ずイエスキリスト及び
之を死人の中より甦へらせ給ひし父なる神に由りて使徒
となれるパウロ及び我と共にある凡ての兄弟書をガラ
テヤの諸教會に贈る。願くは我らの父なる神および主イ
エスキリストの恩恵と平和と汝らにあらん事を。主は我
らの父なる神の旨に遵ひて我らを今の惡しき世より救ひ
出さんとて己が身を我らの罪の爲に與へ給へり。願くは
栄光世々限りなく神にあれアメン。我は汝らが斯くも速に
にキリストの恩恵をもて召し給ひし者より離れて異なる

聖書改譯原稿用紙

七 福音に移りゆくを怪しむ。此は福音と言ふべき者にあら
ず唯ある人々が汝らを擾してキリストの福音を愛へんと
するあり。されど我等にもせよ天よりの御使にせよ我
らの宣傳へたる所に背きたる福音を汝らに宣傳ふる者あ
らば誣はるべし。われら前に言ひし如く今また言はん汝
らの受けし所に背きたる福音を宣傳ふる者あらば誣はる
べし。
八 我いま人に喜ばれんするか或は神に喜ばれんとする
か抑もまた人を喜ばせん事を求むるか我あほ人を喜ばせ
をらばキリストの僕にあらず。兄弟よ我らに示す

五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

我が傳へたる福音は人に由れるものにあらず。我は人よ
り之を受けずまた教へられず唯イエスキリストの黙示に
由れるあり。我がユダヤ教に於ける前の日の舉動は汝ら
既に聞けり即ち烈しく神の教會を責めかつ暴したり。又
わが國人のうち我と同じき年輩ある多くの者にも勝りて
ユダヤ教に進み先祖たちの言傳に對して甚だ熱心ありき。
然れども母の胎を出でしより選び別ちその恩恵をもて召
し給へる者。御子を我が内に顯して其の福音を異邦人に
宣傳へしむるを可しとし給へる時われ直ちに血肉と謀ら
ず我より前に使徒とありし人々に會はんとてエルサレ

聖書改譯原稿用紙

ただ人々の

五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

ムにも上らずアラビヤに出で往きて遂にまたダマスコに
返れり。その後三年を歴てケパを尋ねんとエルサレムに
上り十五日の間かれと偕に留りしが主の兄弟ヤコブの
ほか孰の使徒にも會はざりき。茲に書き送る事は視よ神
の前にて偽らざるあり。その後たりやキリヤの地方に
往けり。キリストにあるユダヤの諸教會は我が顔を知ら
ざりしかど唯人々のわれらを前に責めし者曾て暴した
る信仰の道を今は傳ふといふを聞き我が事によりて神
を崇めたり。

第二章一

復

444p

二 復のちその後十四年を歴てバルナバと偕ともにテトスをも連れ
て、後エルサレムに上れり。我わが上りしは黙示に因りてな
り。斯かくて異邦人の中に宣ぶる福音を彼らに告げ、また名ある
者どもに私ひそかに告げたり。これは我わが走る事こと、また既に走り
しことの空しからざらん為ためなり。而して我われと偕ともあるギ
リシヤ人テトスすら割禮を強ひられざりき。これ私ひそかに
入りたる偽兄弟あるに因りてなり。彼らの潜り入りたるは、
我らがキリストイエスに在りて有てる自由を窺ひ、且われ
らを奴隸とせんためなり。然れど福音の真理の汝らの中

聖書改譯原稿用紙

五 六 七 八 九
に留とどまらん為ために、我ら一時も彼らに譲り従はざりき。然る
にかの名ある者どもより、彼らは如何なる人あるにもせよ。
我われに關係なし、神は人の外面を取り給はず、實にかの名ある
者どもは我われに何をも加へず、反つてペテロが割禮ある者
に對する福音を委ねられたるを認め、ペテロに能力を與へて割禮
福音を委ねられたるを認め、ある者の使徒となし給ひし者は、我われにも異邦人の為ために能力
を與へ給へり。また我われに賜りたる恩恵をさととりて、柱と思
はるつヤコブ、ケパ、ヨハネは、交誼の印として我われとバル
ナバとに握手せり。これは我らが異邦人に往き、彼らが割禮

ことなり、我も國
より此の事

十 ある者に往かん為あり。唯その願ふ所は我らが貧き者を
顧みんことなるが此の事は我も熱心に行へるなり。然れ

主 どヶバがアンテオケに來りしとき責むべき事のありしを
もて、面前これと諍ひたり。その故は或る人々のヤコブの

許より來るまではかれ異邦人と共に食しぬたるにかの人
々の來りてよりは割禮ある者どもを恐れ退きて異邦人と

主 別れたり。他のユダヤ人も彼と共に偽行をなしバルナバ
までもその偽行に誘はれゆけり。然ど我かれらが福音の

真理に従ひて正しく歩まざるを見て、會衆の前にてヶパに
言ふ、ユダヤ人もユダヤ人の如くせず、異邦人の如く

聖書改譯原稿用紙

五 生活せば、何ぞ強ひて異邦人をユダヤ人の如くせらしめん
とするか。我らは生來のユダヤ人にして罪人なる異邦人

六 にあらざれども、人の義とせらるるは律法の行為に由ら
ず、唯キリストイエスを信ずる信仰に由るを知りて、キリス

七 ト、本工スを信じたり。これ律法の行為に由らず、キリストを
信ずる信仰に由りて義とせられん為なり。律法の行為によ

八 りては義とせらるる者一人だになし。若しキリストに在
りて義とせられんことを求めて、おほ罪人と認められんば、

九 キリストは罪の役者なるが決して然らず。我もし前に毀
ちしものを再び建ておぼ、自ら律法を犯す者を表す。

九は、己みづから犯
罪者たるを

我が内

三 我^{われ}は神^{かみ}に生^いきん^{ため}に律法^{おきて}によりて律法^{おきて}に死^しにたり。我^{われ}キ

リストと偕^{とも}に十字架^{いふじ}につけられたり。最早^{もはや}われ生^いくるにあ

らずキリスト我^{われ}内^{うち}に在^ありて生^いくるふり。今^{いま}われ肉^{にく}体^{たい}に在^あり

て生^いくるは我^{われ}を愛^{あい}して我^{われ}がた^{おの}めに已^やぶ身^みを捨^すて給^{たま}ひし神^{かみ}

三 の子^こを信^{しん}ずるに由^よりて生^いくるふり。我^{われ}は神^{かみ}の恩^{めぐみ}恵^{あま}を空^{あふ}し

くせずし義^ぎとせらるゝこと律法^{おきて}に由^よらば、キリストの死^し

に給^{たま}へるは徒^{いたづら}然^{なり}なり。

聖書改譯原稿用紙

第三章一

446

愚なる哉ガラテヤ人よ十字架につけられ給ひしま
あるイエスキリスト、汝らの眼前に顕されたるに誰が汝ら
を誑か^{たぶら}しむぞ。我は汝等よりたゞ此の事を聞かんと欲す
汝らが御霊を受けしは律法の行為に由るか聴きて信じた
るに由るか。汝らは斯くも愚なるか御霊によりて始りし
今肉によりて全うせらるるか。斯程まで多くの苦難を受
けしことは徒然なるか徒然にはあるまじ。然らば汝らに
御霊を賜^{たま}ひて汝らの中に能力ある業を行ひ給へるは律法
の行為に由るか聴きて信ずるに由るか。録してアブラハ

聖書改譯原稿用紙

ム神を信じ、その信仰を義とせられたりとあるが如し。
されば知れ信仰に由る者は是アブラハムの子なるを。
聖書は神が異邦人を信仰に由りて義とし給ふことを知
りて預^あめ福音をアブラハムに傳へて言ふ。なんぢに由り
て萬國の民は祝福せられんと。此の故に信仰により者は
信仰ありしアブラハムと共に祝福せらる。されど凡て律
法の行為に由る者は詛の下にあり。録して律法の書に記さ
れたる凡ての事を常に行はぬ者はみな詛はるべしとあれ
ばなり。律法に由りて神の前に義とせらるゝ事なきは明
あ^あり。義人は信仰によりて生くべしとあればなり。律法

亡

616

の預じめ定め給ひし契約はその後四百三十年を歴て起り
 し律法に廢せらるゝことなく、その約束も空しくせらるゝ
 事なし。もし嗣業を受^うけ^こと律法に由らば、もはや約束に
 は由らず、然るに神は約束に由りて之をアブラハムに賜ひ
 たり。然れば律法は何の爲ぞ。これ罪の爲に加へ給ひしも
 のにて、御使たちを経て仲介者の手によりて立てられ、約束
 を與へられたる^あ末の來らん時にまで及ぶなり。^あ仲介者は
 一方のみの^あにあらざれど、神は唯一に在せり。然ら
 ば律法は神の約束に悖るか決して然らず。若し人を生かす
 べき律法を與へられたらんには、實に義とせらるゝは律法

三

に由りしならん。されど聖書は凡ての者を罪の下に閉ぢ
籠めたり。これ信ずる者のイエスキリストに對する信仰に
由れる約束を與へられん爲なり。

三

四

信仰の出來らぬ前は我ら律法の下に守られて、後に顯
はれんとする信仰の時まで閉ぢ籠められたり。斯く信仰
によりて我らの義とせられん爲に律法は我らをキリスト

五

六

七

八

に導く守役とされり。されど信仰の出來りし後は我等も
はや守役の下に居らず。汝らは信仰によりキリスト、イエ
スにありて皆神の子たり。凡そバプテスマによりてキリ
ストに合ひし汝らは、キリストを衣たちかり。今はユダヤ

聖書改譯原稿用紙

九

人小ガリシヤ人もあく奴隷も自主もあく男も女もなし、汝
らは皆キリスト、イエスにありて一體あり。汝等もしキリ
ストのものあらば、アブラハムの裔にして約束に従へる世
嗣たるなり。